

◆活動報告

等身大の中国を見て — 青年訪中C団と共に —

人はなぜ旅に出かけたくなるのでしょうか。

一般的に言えば、固定したところに長く住み込むと新鮮感がなくなり、人間の脳が疲労気味になってしまい、情熱と活力が失われるからである。自分が住み慣れた町以外のところに旅をすると、期待が高まり、新鮮感が溢れ、脳に有益な刺激を与え、疲れ果てた脳を活性化させる。好奇心を持ち、自分の目で見て、耳で聴き、心で感じれば、今まで見えなかったことが見えるようになり、聞いたことのないことが聞こえてくるし、感じなかったことを深く感じるようになる。心身ともにリフレッシュされ、新しい世界が開けるようになる。

日本華人教授会、一般社団法人日中科学技術文化センターが主催、日本在駐の中華人民共和国日本駐在大使館後援の2015年度日中青年友好交流訪中団が、年末に組織され中国に旅立った。12月23日から29日まで、緊張感に満ちた一週間を体験した。私は日中青年友好交流訪中団のC団の団長として、日本の若者と一緒に、厦門、福州、武夷山、上海を訪問した。



2015年12月中旬ごろ、華人教授会事務局長宋立水教授から、「日中青年友好交流訪中団」の募集があり、学生さんを推薦してくだ

さいという依頼が届いた。期限が迫っていたため、明治大学、中央大学、拓殖大学などで自分の教え子にこの情報を伝えた。嬉しいことにそれぞれの大学が一名ずつC団のメンバーに選ばれた。今回の日中青年友好交流訪中団はA団、B団とC団という三つの分団に分けられ、A団とB団は長江三角州一帯訪問し、C団は福建省という南国のコースを回った。

C団は、まず厦門で二日間、南普陀寺、厦門大学、魯迅博物館、鼓浪嶼、日光岩を見学し、鄭成功の石像を眺めた。有名な仏教文化、現代的大学、綺麗な小島、名勝古跡などを目にし、紅い三角梅に包まれた美しい風景に魅了され、町の発展の物語に心を打たれながら、美味しい中華料理を味わった。

続いて、三日目は福州へ移動した。長いバス乗りの中、窓外の風景を鑑賞しながら、各自が年末訪中団の抱負と厦門訪問の印象を語り合った。また三日間で短い期間だったが、ありのままの中国を自分の目でみて、日中友好交流のために貢献しなくては、という共通の目標をもつようになった。

福州市で木の根を彫る「根彫」の会社創源を見学し、すべてが世界唯一の作品に目を見張り、職人さんの想像力と創造力に感服させられた。福州大学機械学院で、教員と学生の研究成果の展示館でロボット鯉に興味津津に見学した。長崎大学へ留学し、そこでの9年間の勤務経験を持つ陳碩教授の話聞き、学生諸君との意見交換が行われた。福大の新しいキャンパスは極めて広く、新しい図書館などが斬新なデザインでつくられ強い印象が残された。夕方、中国の歴史上有名人が住んだことのある伝統的な町三坊九巷を訪ね、文化の奥深さを深く感じた。

その翌日、憧れの武夷山へ移動した。青空の下で聳え立つ大王峰を見ながら、天下第一

清流という九曲溪流をくだり、「舟在水上行、如在画中游」を楽しんだ。



その後お茶を販売する茶農の家で「大紅袍」を試飲し、夕方「印象シリーズ武夷山」というスケールの大きい劇を鑑賞した。翌日、武夷山の天遊峰へ向かい、訪中団総顧問の凌星光先生は先頭に立った。頂上まで登り絶景を眺望した後、烏龍茶の栽培地を見学、岩茶「大紅袍」の古樹を観賞した。その後、武夷山北駅から中国の新幹線——高鉄に乗り上海へ移動した。

6日目、上海交通大学を訪問し、日中交流のために活躍する留日学者季衛東法学部教授の素晴らしい講演を聞き、その後ノーベル賞受賞者の李政道博物館を見学した。李教授は米国の大学へ留学する優秀な人材を推薦したが、数多くの推薦書が展示されたコーナーで深く感激した。人材育成のために、尽力した教授の優れた人格に敬服し感動された。

旅先で多くの新鮮なことに刺激された。綺麗な風景、悠久の歴史、奥底深い文化、美味しい料理、そして人々の優しさに対し、いろいろな感動と感激が生まれた。そしてより重要なことは、感動と感激が共有することである。我々C団はメンバーの自治を実施した。中央大学大学院の辻君が総長になり、明治大学の堀君と拓殖大学の丸井君は副総長にした。さらにその下に数チームに分け、各チームは、それぞれチームリーダーを選出し学習、総務、安全などの担当者を決め、役割分担を明確にした。短い時間で立派な組織作りができた。メンバー諸君は各自の専攻があり、多彩の才能をもつ人材が揃っていた。こうした人達によって構成されたC団は、組織能力が高く、感性が豊かで観察力も鋭かった。話が

ユーモアに富み、独自の視点での感想と感激をバス移動中や空港での総括の中で語り合い共有した。旅先での新鮮な感覚で書いた感想文や作品を活字化にし、さらに多くの方々に伝えたい。これは大変有意義なことで、一冊の文集が出ることを楽しみにしている。

日中関係は政治面ではまだ難題があるが、C団の若い諸君は年末に中国で人々の暖かい気持ちを感じとった。中国の個々の人々の優しさに感動し感激していた。また、両国にはそれぞれの優れた文化を学び合うところが多いと感じた。多くのメンバーは「現代の遣唐使」という自覚を持ち、日中関係の懸け橋になりたいという目標を持つようになった。C団諸君が書いた年末中国への旅の感想の文集が、日中関係をいい方向へ向かわせるために、一石を投じることになるよう心から願っている。

最後に下記の「顺口溜」をまとめ、C団の年末訪中を記念する。

記

[访厦门]

C団年末访中国，
厦大比邻南普陀，
鼓浪屿上日光岩，
追忆郑公伟业卓。

[访福州]

福州根雕创之源，
巧夺天工意趣添，
三坊九巷忆名人，
福大引领搞科研。

[访武夷山]

慕名胜地武夷山，
溪流如画九曲湾，
乌龙茶乡大红袍，
天游峰顶赏奇观。

[访上海]

交大育才有气魄，
政道功绩不可没，
日中交流促双赢，
留日学者为楷模。

(文責：明治大学教授 郝燕書)

